

「小児からの脳死下臓器提供にかかる基盤整備と普及啓発のための研究」  
小児脳死下臓器提供における看護の検討

研究分担者 日沼千尋 東京女子医科大学看護学部 教授

研究要旨：

本研究の目的は、「脳死状態にある子どもと家族への支援の実際を明らかにし、子どもの家族が脳死下臓器提供の意思決定に至る支援のあり方を検討する」ことである。研究方法は インタビューデータを分析対象とする質的研究であり、研究対象は、15歳未満の小児の脳死下臓器提供を実施した施設（日本臓器移植ネットワークHpにおいて公表）のうち、施設長の許可が得られ、研究の趣旨に同意した看護師6名を対象としてインタビューを実施する。インタビューの内容は、看護師の属性のほかに脳死下臓器提供をした子どもと家族に看護師が行った支援の内容を中心とする。倫理的観点から、東京女子医科大学倫理委員会に申請し、倫理的観点からの承認を得た。

A. 研究目的

脳死状態にある子どもと家族への支援の実際を明らかにし、子どもの家族が脳死下臓器提供の意思決定に至る支援のあり方を検討する。

B. 研究方法

研究デザインは インタビューデータを分析対象とする質的研究。

研究対象は15歳未満の小児の脳死下臓器提供を実施した施設（日本臓器移植ネットワークHpにおいて公表）のうち、施設長の許可が得られ、研究の趣旨に同意した看護師6名を対象としてインタビューを実施する。対象の選択基準は①同意取得時において年齢が20歳以上の看護師②脳死下臓器提供をした子どもと家族のケアを一日以上担当した看護師③本研究の参加にあたり十分な説明を受けた後、十分な理解のうえ、本人の自由意志による文書同意が得られた看護師とする。インタビューで収集する主な内容は「患者ケアの実際」であり、以下の内容を含むインタビューガイドに基づき収集する。

①研究対象者の年齢②研究対象者の職種、専門③研究対象者の経験年数、移植医療に関わった経験④研究対象者の所属部署、診療科⑤対象者が行った看護ケアについて（インタビューの中に出てくる患者情報は臓器移植ネットワークホームページで公表されている年齢、脳死の原因となった病状以外の情報は、内容理解に支えない程度に漠然化または削除する）

「子どもに対して行った支援とケア、その根拠、

心がけたこと」「家族に対して行った支援とケア、その根拠、心がけたこと」「子どもと家族のために良かったと考える支援、ケア」「もっとこうすればよかったと思う支援、ケア」「子どもの脳死下臓器提供における支援、ケアの課題」「当時は振り返って感じること」

データ解析は、質問項目毎に要点をまとめ、臓器提供をする子どもと家族への支援を検討する。

倫理面への配慮として、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号）に基づき、東京女子医科大学倫理委員会の承認を得て実施する（承認番号5153）。研究担当者は、同意説明文書を研究対象者に渡し、文書および口頭による十分な説明を行い、研究対象者の自由意志による同意を文書で取得する。インタビューデータは匿名化し、対応表は本研究にかかわらない第三者が保管する。

C. 研究結果

調査未着手のため、結果は出ていない。

D. 考察

調査未着手のため、考察はない。

E. 結論

調査未着手のため、考察はない。

F. 健康危険情報

（分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入）

G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし